

結論

1. 明治改暦の時点で「グレゴリオ暦がその制定意図に対して約七千年に一日の誤差」であったことは客観的事実である。
2. 回帰年の概念はケプラーの第一・第二法則を前提とする。法則の発見(1609年)はグレゴリオ改暦(1582年)より後である。
3. 『遠西観象図説』の円環年の値は間違いではなく、出版当時の官暦である寛政暦と一致する。寛政暦の値はニュートンの計算に遡る。
4. ニュートンの値は回帰年を意図して導出されたもので、春分年の値に近いのは偶然である。

疑問点

1. ニュートンの値と時憲暦の採用値の差、0.694秒の由来は何か?
2. 時中暦の暦元天明七年の時点では麻田剛立は『暦象考成後編』を入手していないのでは?
3. 寛政暦の周期的消長法は春分年とあまりに一致している。本当に偶然か?
4. アダム・シャルルの置閏法が日本の学会に知られたのはいつか?

昭和 29~30 年と確認できた。
5. 『遠西観象図説』の 7200 年に 1 日という記述が日本の学会に知られたのはいつか?

ティコ・ブラーエ (16 世紀後半の観測)



365d5h48m45s - ケプラー (1627) …ルドルフ・テーブル



365d5h48m45s - アダム・シャルル (1645) …時憲暦 (『暦象考成』)



365d5h48m45.5s - ラランド (1770 年代)



365d5h48m47.46s - グリニジ航海暦 (1872?)



分の桁に丸めて、それを真値とみなして計算間違い

365d5h49m - 市川斎宮・塚本明毅 (1872) …明治改暦の建議



市川斎宮の名前が吉雄俊蔵に置き換わる

365d5h49m - 吉雄俊蔵 (1823) …『遠西観象図説』

ヒッパルコス (前 2 世紀の観測)

フラムスティード (17 世紀後半の観測)



365d5h48m57s - ニュートン (1700/2/27) …手稿



365d5h48m57.694s - ケーグラール (1742) …時憲暦 (『暦象考成後編』)



365d5h48m58.223s - 麻田剛立 (1787) …時中暦



365d5h48m59s - 高橋至時・間重富 (1798) …寛政暦



365d5h48m59.915s - 寛政暦 (1827)



1827 年と 1823 年では年の長さは余り変わらないはず

365d5h49m - 吉雄俊蔵 (1823) …『遠西観象図説』



365d5h49m (?) - 塚本明毅 (1872) …明治改暦の建議